



「発見された日本の風景」連携展

ただいま

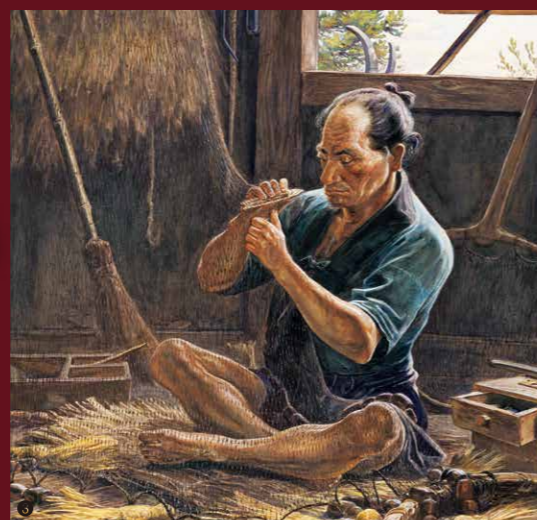
孤高の高野光正コレクションが語る

やさしき明治

府中市美術館
Fuchu Art Museum

2022年5月21日(土)~7月10日(日)

前期:5月21日(土)~6月12日(日) 後期:6月15日(水)~7月10日(日)



「一点でも多く日本に里帰りさせること」
だから海外からだけの蒐集は続いた。

コレクターの願いは

ここに失われた日本の美しさ、
人々の心、やさしさがある。
忘れられた日本がここにある。

かくて百年前に海を渡り、
今まで英米に残った絵たち。

海外へと散っていった。

彼らの鞆には旅の思い出と、そして数枚の優れた
水彩画が携えられていた。
こうして本当の明治が、ゆっくりと
海外へと散っていった。

最後は涙で横浜港をあとにする
異邦の旅行者たち。

日本人画家たちは、墨を水彩絵具に、
毛筆を水彩筆に代えて、
明るく、みずみずしく「日本」を活写し始めた。

憧れとともに来日し、不思議の国「日本」を
めぐったイギリスから来た画家たちは
得意の本格的な水彩画を日本に伝えた。



「発見された日本の風景」連携展
孤高の高野光正コレクションが語る

ただいま やさしき明治

2022年5月21日(土)~7月10日(日)

前期:5月21日(土)~6月12日(日) 後期:6月15日(水)~7月10日(日)

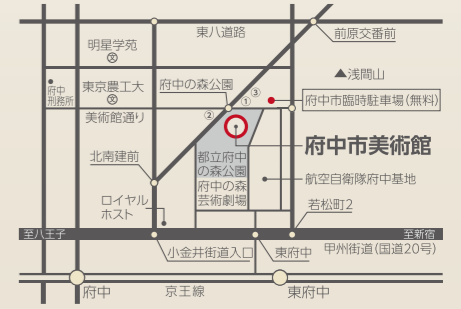
休館日:月曜日、6月14日(火)
開館時間:午前10時から午後5時(入場は午後4時30分まで)
観覧料:一般700円(560円)/高校生・大学生350円(280円)/
小学生・中学生150円(120円)
作品の展示替えを行います。2度目は半額!
*観覧券をお求めいただくと、2度目は半額になる割引券が付いています
(本展1回限り有効)。
*()内は20名以上の団体料金。*常設展もご覧いただけます。
*未就学児および障害者手帳等をお持ちの方は無料。
*府中市内の小中学生は「府中っ子学びのバスポート」で無料。
*展覧会の開催状況については、ご来館前にウェブサイトや
ハローダイヤルで最新の情報を確認ください。

【関連イベント】
関連イベントについては、当館ウェブサイトや
ハローダイヤルでご確認ください。

【同時開催】
常設展 第1期 公開制作 幸田千依

【次回の展覧会】
夏休みチャレンジ「アートのたねを見つけよう!」
7月23日(土)~9月11日(日)

【地図・交通案内】
■京王線東府中駅北口から
・徒歩17分
・ちゅうバス府中駅行きで「府中市美術館」①下車すぐ
(8:05から30分間隔で運行、運賃100円)
■京王線府中駅から
・ちゅうバス多磨町行きで「府中市美術館」①下車すぐ
(8:00から30分間隔で運行、運賃100円)
・京王バス武蔵小金井駅南口行き(一本木経由)で
「天神町二丁目」②下車すぐ
■JR中央線武蔵小金井駅南口から
・京王バス府中駅行き(一本木経由)で「一本木」③下車すぐ
■お車の場合は、美術館近くの 府中市臨時駐車場
(無料、54台収容)をご利用ください。



【表紙掲載作品】
① 笠木治郎吉《農家の少女たち》(部分)
② 笠木治郎吉《提灯屋の店先》
③ 笠木治郎吉《漁網を纏む男性》(部分)
④ 渡辺文三郎《東海道薩埵峠之図》
明治28年(部分)
⑤ 吉田ふじを《池畔の花菖蒲》明治42年
⑥ 笠木治郎吉《狩人》
⑦ 笠木治郎吉《花を持つ少女》(部分)
⑧ 笠木治郎吉《新聞配達人》
⑨ ウォルター・ティンデル《ユダの木と清水寺》

主催:府中市美術館 京都国立近代美術館 日本経済新聞社
後援:ブリティッシュ・カウンシル
ハローダイヤル:050-5541-8600
府中市美術館 〒183-0001 東京都府中市浅間町1-3

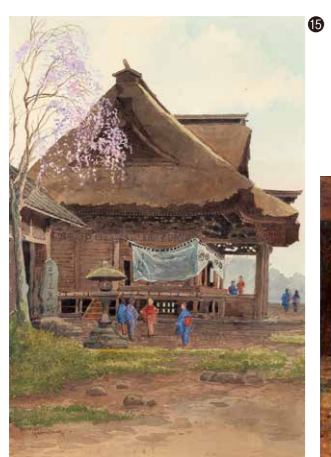
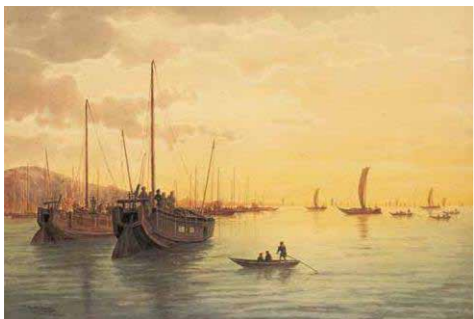
府中市美術館
Fuchu Art Museum



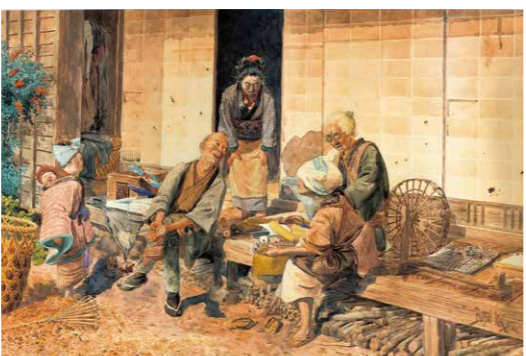
コレクター高野光正氏の 半生をかけた孤高の挑戦

日本人画家が描いた「明治」vs 来日画家に描かれた「明治」

「おみやげ」というより「ジャパニーズイメージの輸出」!



こういう日本を誇らしく思っていた

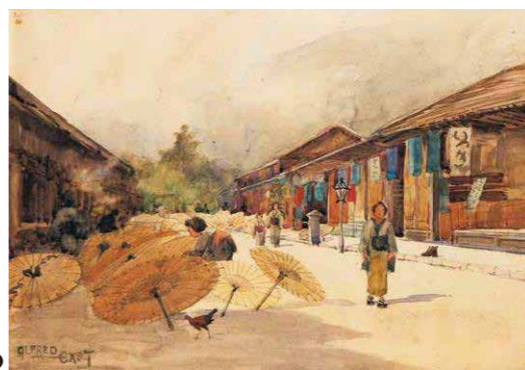


- ① 小山正太郎《秋景園》
- ② 高橋勝蔵《少女像》明治38年
- ③ 渡辺豊洲《大阪の天保山》(部分)
- ④ 五百城文哉《農家の縁側の行商人》
- ⑤ 沼辺強太郎《清水寺》
- ⑥ 吉田博《夜の灯》
- ⑦ 丸山晩霞《大日堂》
- ⑧ 柳(高橋)源吉《芝増上寺》明治20年
- ⑨ 満谷四郎《傘をさす子守の少女》

- 主な出品日本人画家(生年順)
- ① 小宮山正太郎(1827-1892)
 - ② なかやまとしつ(1840-1890)
 - ③ たむらそりゅう(1846-1918)
 - ④ こばやしよしか(1847-1915)
 - ⑤ やまむらりゅう(1848頃-没年不詳)
 - ⑥ ほんださんきちろう(1850-1921)
 - ⑦ やまもとほうすい(1850-1906)
 - ⑧ かむらさよ(1852-1934)
 - ⑨ わたなべぶんぶ(1853-1936)
 - ⑩ まついのぼる(1854-1933)
 - ⑪ ごせだよし(1855-1915)
 - ⑫ こやましようたろう(1857-1916)
 - ⑬ やなぎ(たかほし)げんきち(1858-1913)
 - ⑭ ひらきまさつ(1859-1943)
 - ⑮ たかはしかつぞう(1860-1917)
 - ⑯ あんどうちゅうたろう(1861-1912)
 - ⑰ のざきかねん(1862-1936)
 - ⑱ いおきふんさい(1863-1906)
 - ⑲ わたなべほうしゅう(1863-1915)
 - ⑳ おざわいちろう(1864-1922)
 - ㉑ ごせだほうりゅう(2せい)(1864-1943)
 - ㉒ くらたせい(1866-1924)
 - ㉓ かむいしんぞう(1867-1936)
 - ㉔ まるやまはんか(1867-1942)
 - ㉕ かとうえいか(1869-1942)
 - ㉖ ぬまべきょうたろう(1869-没年不詳)
 - ㉗ おかしたとうじろう(1870-1911)
 - ㉘ かさきじろきち(1870-1923)
 - ㉙ いしかわきんいちろう(1871-1945)
 - ㉚ おがさわらほうがい(1871-1920)
 - ㉛ しらたきい(のすけ)(1873-1960)
 - ㉜ ながとちひでた(1873-1942)
 - ㉝ かのこぎたけしろう(1874-1941)
 - ㉞ みつたにけしろう(1874-1936)
 - ㉟ みやけかつみ/こっさ(1874-1954)
 - ㊱ いしかわとらじ(1875-1964)
 - ㊲ よしだひろし(1876-1950)
 - ㊳ なかがわはちろう(1877-1922)
 - ㊴ いそべなただかず(1880-1957)
 - ㊵ こすきみせい(1881-1964)
 - ㊶ いしいはく(1882-1958)
 - ㊷ よしだふじ(1887-1987)
 - ㊸ まえかわせんぼん(1888-1960)
 - ㊹ かわくぼ(まきな)(没年不詳)
 - ㊺ たぶちたもつ(没年不詳)

来日画家と日本人画家が 愛した「明治」がここに!

- 主な出品来日画家(生年順)
- ① (1821-1910) ウィンクワース・アラングレイ
 - ② (1823-1909) フランク・デュロ
 - ③ (1823-1899) ウィリアム・シンプソン
 - ④ (1828-1885) ウォルター・フェイン
 - ⑤ (1832-1891) チャールズ・ワーグマン
 - ⑥ (1837-1922) ロバート・チャールズ・ゴフ
 - ⑦ (1837-1924) コンスタンズ・ゴードン・キング
 - ⑧ (1843-1898) チャールズ・スパーバーキング
 - ⑨ (1844-1913) アルフレッド・イースト
 - ⑩ (1844-1926) ハリー・ハンフリー・ムーア
 - ⑪ (1845-1921) アーネスト・ワズワース・ロングフェロー
 - ⑫ (1847-1920) アルフレッド・パーソンズ
 - ⑬ (1847-1923) カール・ザルツマン
 - ⑭ (1848-1918) アルフレッド・エドワード・エムスリー
 - ⑮ (1850-1933) ジョン・ヴァーレー・ジュニア
 - ⑯ (1851-1942) ロバート・ウィリアム・アララン
 - ⑰ (1854-1906) チャールズ・エドウィン・フリップ
 - ⑱ (1855-1938) モーティマー・メンペス
 - ⑲ (1855-1943) ウォルター・テイデル
 - ㉑ (1857-1900) スティーヴン・ヒル・パーソン
 - ㉒ (1857-1952) クレメント・パーマー
 - ㉓ (1860-1927) ジョルジュ・フェルディナン・ビゴ
 - ㉔ (1860-1925) トーマス・ホジソン・リデル
 - ㉕ (1861-1941) ジェイムズ・グレイド
 - ㉖ (1863-1965) モンタギュー・スマイス
 - ㉗ (1868-1919) ヘレン・ハイド
 - ㉘ (1869-1945) エーリヒ・キプス
 - ㉙ (1874-1943) エラ・デュケイン
 - ㉚ (1881-1967) フランク・ベレスフォード
 - (没年不詳) オトレイシー
 - (没年不詳) G・ブロッケルバンク
 - (没年不詳) F・L・チャップマン



- ① モーティマー・メンペス《芝居小屋》
- ② エラ・デュケイン《庭園の喫茶》
- ③ ジョン・ヴァーレー・ジュニア《東京の芝の眺め》明治24年
- ④ アルフレッド・イースト《雨後の傘干し》



こんなにたくさんのおみやげの優れた画家が来日していた



- ⑤ アルフレッド・パーソンズ《富士山》
- ⑥ ジョルジュ・フェルディナン・ビゴ《伊豆修善寺の菊屋の厨房》明治20年
- ⑦ フランク・ベレスフォード《大磯の岩崎別邸の庭》明治41年
- ⑧ チャールズ・ワーグマン《日傘をさす女》(部分) 明治9年

おかえり、ほんとうの明治。
ただいま、穏やかなるやさしさと
ほほえみたち。

地球の反対側から引き寄せた。

もうひとつの明治を

「海外に眠る日本を描いた作品を、
一点でも多く里帰りさせたい。」

コレクターの願いと情熱と努力は、
もうひとつの明治を

「海外に眠る日本を描いた作品を、
一点でも多く里帰りさせたい。」

コレクターの願いと情熱と努力は、
もうひとつの明治を

「海外に眠る日本を描いた作品を、
一点でも多く里帰りさせたい。」

コレクターの願いと情熱と努力は、
もうひとつの明治を

「海外に眠る日本を描いた作品を、
一点でも多く里帰りさせたい。」

コレクターの願いと情熱と努力は、
もうひとつの明治を

「海外に眠る日本を描いた作品を、
一点でも多く里帰りさせたい。」

コレクターの願いと情熱と努力は、
もうひとつの明治を

「海外に眠る日本を描いた作品を、
一点でも多く里帰りさせたい。」

コレクターの願いと情熱と努力は、
もうひとつの明治を

「海外に眠る日本を描いた作品を、
一点でも多く里帰りさせたい。」

コレクターの願いと情熱と努力は、
もうひとつの明治を

「海外に眠る日本を描いた作品を、
一点でも多く里帰りさせたい。」

コレクターの願いと情熱と努力は、
もうひとつの明治を

「海外に眠る日本を描いた作品を、
一点でも多く里帰りさせたい。」

コレクターの願いと情熱と努力は、
もうひとつの明治を

「海外に眠る日本を描いた作品を、
一点でも多く里帰りさせたい。」

コレクターの願いと情熱と努力は、
もうひとつの明治を

「海外に眠る日本を描いた作品を、
一点でも多く里帰りさせたい。」

コレクターの願いと情熱と努力は、
もうひとつの明治を

「海外に眠る日本を描いた作品を、
一点でも多く里帰りさせたい。」

コレクターの願いと情熱と努力は、
もうひとつの明治を

「海外に眠る日本を描いた作品を、
一点でも多く里帰りさせたい。」

コレクターの願いと情熱と努力は、
もうひとつの明治を

「海外に眠る日本を描いた作品を、
一点でも多く里帰りさせたい。」

コレクターの願いと情熱と努力は、
もうひとつの明治を

「海外に眠る日本を描いた作品を、
一点でも多く里帰りさせたい。」

コレクターの願いと情熱と努力は、
もうひとつの明治を

コレクターについて

高野光正氏は1939年、名古屋生まれの実業家。父高野時次氏は画家浅井忠の珠玉の水彩画73点を東京国立博物館へ一括寄贈したことで知られる。光正氏は同志社大学経済学部を卒業後、留学のため渡米。コルゲート大学大学院に在学中、余暇を利用してニューヨークの画廊を巡る。後年再び渡米しニューヨークでボストンの浮世絵画商と知り合い、クリスティーズで鹿子木孟郎の「上野不忍池」を初入手し、これを機に日本人作家の情報を現地の知人から入手しつつ作品を蒐集。アメリカで該当作品が少なくなると舞台を英国に移し、在英画商等を通じて蒐集を続けた。現在約700点にのぼるコレクションはほぼ全てアメリカまたはロンドンでのみ入手した欧米からの里帰り作品である。



- ・これほど多くの来日画家がいた!
- ・そのほとんどが英国の画家だった!
- ・これまで知られざる英国と日本の画家併せて約七十七名を挙紹介!
- ・来日画家が魅了されたほんとうの日本とは?
- ・日本の画家が世界に示した日本の美とは?
- ・明治期の庶民の微笑みと優しさは、描かれている!
- ・日本から海外に渡った作品のみを蒐集!
- ・厳選約三〇〇点の初公開!
- ・一人の人が半生をかけた渾身の蒐集成果は、父見!

本展の見どころ



コレクター高野光正氏は言う。「展覧会をご覧いただき、夕べに「こんな日本が昔あったのか」と誰かと語りながら一杯傾けていただけは、はじまりです。

こうした作品を二人のコレクターが人知れず、沈潜して黙々と蒐集を続け約七〇〇点近くの主に水彩画を欧米から独力で里帰りさせたのである。これはまさに偉業の語であり蒐集を超えた事業といえよう。高野光正コレクションの公開は、日本近代美術史の書き換えを迫り、何より我々の持つ「明治」のイメージに「美しさ」と「やさしさ」を加えるものである。

コレクター高野光正氏は言う。「展覧会をご覧いただき、夕べに「こんな日本が昔あったのか」と誰かと語りながら一杯傾けていただけは、はじまりです。

鎖国の時代にも一部では活発に国際交流はなされていた。なんとイギリスと日本との交流は江戸の初めからあったのである。明治以前に日本の様子は紀行文や報告書で伝えられ、地球の反対側の「日本」は黄金のジャパングから不思議な魅力に溢れた島として知られていく。明治になると横浜に外国人居留地もでき、来日する旅行者も増える。日本の様子を知りたく本國に伝えるため挿絵を描く画家と写真カメラマンなどが来日する。すると横浜の新聞記者チャールズ・ワーグマン宅にすかさず日本の青年画家からは西洋画を習いに押しかけた。

イギリスの人気絵画はターナーで知られる水彩画である。本展で紹介するようにイギリスから多くの優れた画家が来日し、憧れの日本を描きたるだけでなく、水彩画を日本に伝え、描かれた作品は大切に本國に持ち帰っていった。日本の青年画家は、あつさりとした風合い、水と筆で描ける親しみやすさに水彩画に夢中になり、やがて色のある水筆で描かれる「みずえ」は日本に適した西洋画として広まり「明治」を写真し、当然のように日本国内でも大人気絵画となっていく。

さて問題は、当時の風景、風物、人々の様子は、失われてしまったことである。当時の写真技術では人々の「喜び」や「ほほえみ」など記録できようもない。けれども、この明治期の水彩画が描きとった「美しく、優しき明治」が、欧米に残されていたのである。

高野光正コレクションが語るもの